

第91回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年1月9日(月) 14時～17時

兼題「七草」「松取れて」

- 川井素山 ○松取れてまだ墨堤の芽の固し
虎落笛夜どおし点る番屋の灯
京町屋時雨に濡るる竹矢来
ストーブ列車行商女等の艶話
- 保井寶正 ○筆架揺れ磨る青墨の淑気かな
幼子の声高らかに御慶かな
松取れてなにもかわらぬ都会かな
初句会晴れ着の匂ひゆくりなく
- 後藤克彦 ○ゆく年やあと一本の徳利酒
老い入れて香り楽しむなすなかつゆ 薺粥
大吉の神籤引き当て年はじめ
初売りも暮と同じのセール幟
- 佐久間喬 ○七草の名前そらんじ競ふ子等
失せしものそれぞれにあり除夜の鐘
年移る旅の終りの渡し船
松取れて次の楽しみ汁粉かな
- 丸山酔宵子 ○篝火に浮ぶ巫女の手初神楽
なすな打つ卒寿を過ぎし母元氣
風に揺れ熟れて重たし冬薔薇
箱根路を登る往路や屠蘇祝ふ
- 菊地崇之 ○松取れて妻自由なり家事親父
柊や何故か知れぬに里心
温温し里のお雑煮三世代
梅の香にひよどり騒ぐ朝の道
- 吉田啓悟 ○それぞれの子等の去りゆく三日の夜
日の暮のゆるり伸びらか松納
昼すぎてざわめく音の二日かな
雪晴や記憶の底に中尊寺

- 青木英林 ○霜柱蹴散らす時は子に戻る
風の海沖ゆく影は宝船
松取れて外国人の目立つ街
古民家や七草喰べに親も子も
- 牧野里山 ○初詣木立にじます日の光
鳶舞ふ大空高く冬の空
松の内皆で巡る七福神
雪の中町の灯りが見え隠れ
- 佐久間たか子 ○葉牡丹や床に五色の花となる
顔で受け背で受けての焚火かな
紅色に顔をも染めて夕焚火
畦道に七草みつけ風の吹く
- 山本草風 ○数へ日や不孝者なる墓掃除
笹鳴や保育園児が散歩する
松取れてビジネス街に活気かな
年の瀬に東京背負ひ故里へ
- 金森純女 ○福寿草露店の闇を照らしけり
語学書に人の群れをり三が日
七種や塩味薄き母の粥
すれちがふ淑気ほのかに神楽坂
- 佐伯兵庫 ○七草の絵図をにらみて田んぼ道
米寿には過激な落語初笑
福詣りもまれバイパス親子づれ
着ぶくれや和洋かけもち早替り
- 渡辺鯨波 ○松とれて無聊をかこつ老教師
松とれて数独パズル始めけり
着ぶくれて一眼レフでゴジラ撮る
大白鳥美空ひばりのファルセット
- 澁谷瑠璃 ○七草に入れてもらへぬもの咲ける
ふるさとを持たぬあの娘に年来る
呼ばるるを待つしかできぬ恋歌留多
この命死なないやうに羽子^{はね}をつく

石川智子 ○七草を吹く静けさや湯気の中
 プレゼント置くだけ妻の墓に雪
 冬金魚薄き光に尾のゆるる
 初釜の湯気立つ向こう笑みの咲く

次回「萩句会」

日時 2017年2月13日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『鬼やらひ』『追儼（ついな）』一句 当季雑詠三句 計四句